

賑わいの街、曲げわっぱの群景



concept

秋田芸術劇場、CCRC 拠点「クロッセ秋田」、駅前緑化の推進。近年、駅前再開発が盛んである。少子高齢化が深刻化する今日、駅周辺に県内外の人を引き付けるには、場の魅力と、イベント時だけでなく日常的な賑わいが必要であるとする。場の創造価値が問われる今だからこそ、もっと秋田らしさを、もっと日常的な賑わいを感じられる空間を提案する。

location

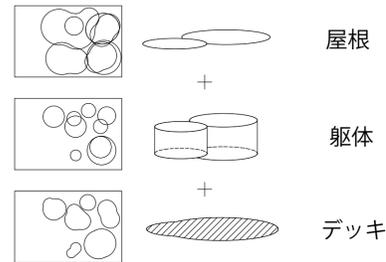


2012年、芸術・文化・観光の拠点として開業したエリアなかいち。ネットでも手が届く時代に、もっと秋田の魅力を感じられる空間を設計することで、駅前により多くの人が集うのではないかと考え、エリアなかいちを計画地とした。

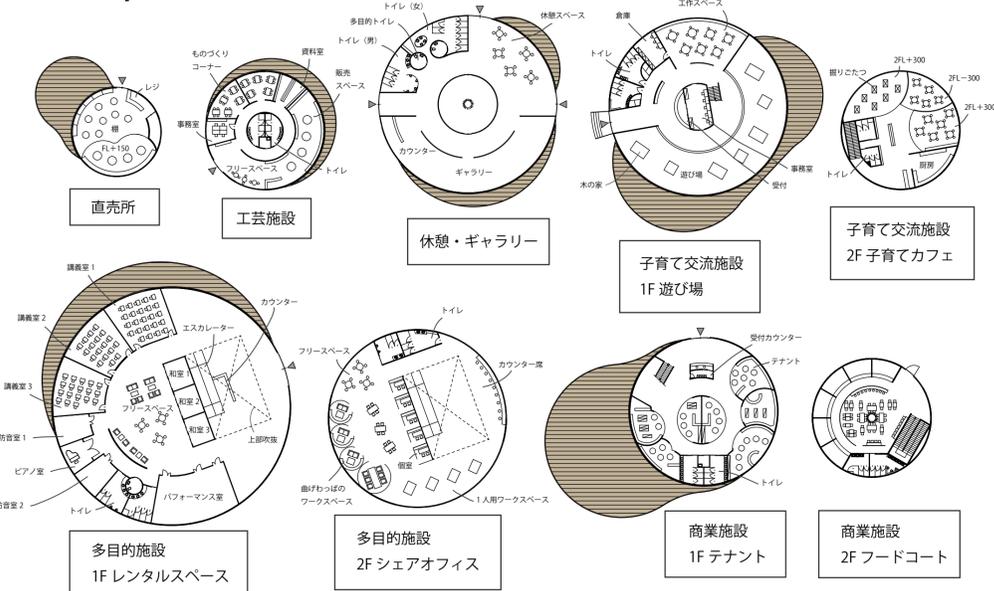
diagram

3つの木の積層

屋根・躯体・デッキの3つをずらして配置。
▷屋内・屋外・半屋外空間を形成。
▷歩くきっかけを作る。



floor plan



layout plan

賑わいのコンテンツを集約させる

コンパクトシティのさががけに。
様々な目的を持った人が行き交う賑わいの街に。

木質デザインの提灯で一日の終わりを彩る。木の温かさと人の温かさを感じる。



01 屋台空間による賑わいの創出

地元の人や観光客で賑わう半屋外の屋台空間の提案。若者や移住者のビジネスチャンスに。夜は木質デザインの提灯でライトアップされる。



02 駅前から広がる地産地消の輪

米、酒、野菜。秋田の食の魅力の駅前から発信し、地産地消を推進する。飲食店の起業家との出会いで新たなビジネスチャンスにもなる。



08 大階段で見る、話す、食べる

千秋花火や竿灯妙技会など、イベント時には観覧席や出店で買ったものを食べるスペースになる。日常的には休憩や談笑のスペース、待ち合わせの場となり、フレキシブルな大階段で日々の賑わいを引き出すことを提案する。

07 情報発信の場

休憩施設に展示スペースを設けることで、気軽に足を運ぶことができる。ギャラリーの展示を通じて、県内外に情報を発信する場になる。仕切りを減らし中庭を設けることで開放的な空間となるよう設計した。

06 子育て世代の交流

少子化が深刻化する中、駅前を中心に子育て支援を広げ、親同士の交流の場を作る。室内に設置された小さな木の家で、木材を感じながら遊ぶことができる。子育てカフェには掘りごたつ席を設け、足元にも木材の温かさを感じながら寛ぐことができる。



05 体験価値の創造

ものづくり体験やお土産販売を通じ、県外に秋田の工芸の魅力を発信。若者に興味を持ってもらい、後継者を見つけるきっかけにもなる。



03 新たなワークスタイルと地域交流

多世代が利用するレンタル空間で地域交流の場を作る。シェアオフィスは、リモートワークや学生の勉強スペースとして毎日多くの人が行き交う。

04 若者や観光客の集客

若い世代が駅前に集うきっかけを作る。フードコートは木質とし、屋根上テラスと一体とすることでより木材を感じる。